

学科名	電気通信工学科							
科目名	教育学概論							
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	前期			
必修・選択の別	教職必修							
担当者	岡野亜希子							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育や子どもをめぐる問題について知る。 ・マスメディアからの情報を批判的なまなざしで捉えることができるようになる。 ・小レポートを通じて自分の考えを客観的な言葉で表現することができるようになる。 							
日程と内容	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要、参考図書の紹介、成績評価について</p> <p>第2回 「子ども」とはなにか？</p> <p>第3回 「青少年は凶悪化した」のか？（1）</p> <p>第4回 「青少年は凶悪化した」のか？（2）</p> <p>第5回 「少年法は甘い」のか？</p> <p>第6回 「家庭の教育力は衰退した」のか？</p> <p>第7回 「子を虐待する親は増えた」のか？（1）</p> <p>第8回 「子を虐待する親は増えた」のか？（2）</p> <p>第9回 「昔の家庭のしつけはスバラシイ」のか？</p> <p>第10回 「家族」とは何か？（1）</p> <p>第11回 「家族」とは何か？（2）</p> <p>第12回 子どもが学校に行くのは当たり前？（1）</p> <p>第13回 子どもが学校に行くのは当たり前？（2）</p> <p>第14回 子どもが学校に行くのは当たり前？（3）</p> <p>第15回 これまでのまとめ 試験</p>							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	30%		
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<p>以下のような点から、教職課程の入門科目としての一定の役割を果たすことができたと思われる。</p> <p>教育される立場からだけでなく、教育する立場から考える必要性を理解できる。</p> <p>学校教育の果たしている役割と社会の動きとのかかわりについて気づくことができる。</p> <p>マスメディアの教育言説が、私たちの教育観や子ども観を一部分しか表現していないことを理解できる。</p>							
反省点	<p>教員が教室の使い方に慣れてきたため、昨年のように、一部の学生の私語に気づかずに適切な指導が行えず、授業後に別の学生から指摘されるということにはなかった。ある程度は集中して授業に臨める環境が確保できたのではないかと。</p>							
来年度の計画	<p>今年度は決まるの定期試験の補助評価として中間レポートを行った。特に問題はなさそうなので、次年度も継続したい。</p>							
授業評価アンケートに対するコメント	<p>反省点と来年度の計画に書いた通り、記述内容は来年の参考にしたい。</p>							
履修登録者数	38名	定期試験 受験者数	38名	合格者数	38名	合格率	100%	